

平成 22 年 5 月 10 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007年～2010年

課題番号：19520592

研究課題名（和文）近世琉球寺院の社会的機能の解明—私寺の分析を中心に—

研究課題名（英文）A function of temple in the pre-modern Ryukyuan society

研究代表者 下郡 剛

（沖縄工業高等専門学校・総合科学科・准教授）

研究者番号：50413886

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史、琉球史、仏教史

1. 研究計画の概要

前近代、王府が公認した寺院は、政治的・経済的支援を付与されたが、他方で、そのような支援が受けられない寺院も那覇を中心に多数存在した。このような私的な寺院は、何かしらの社会的機能を有さなければ、経済的に存続しえなかつたはずであるのだが、かかる視点に立った研究は皆無である。本研究では、首里王府外周辺地域（久米島・沖縄本島北部の名護と今帰仁・慶良間諸島・渡名喜島・粟国島）の地方役人層と真言宗寺院の私寺との関係を明らかにし、それらの寺院が在地社会に果たした役割を解明したいと考える。

2. 研究の進捗状況

（1）平成19年度から本年まで、特に沖縄の地方文書を利用して研究を進めてきた。中心となったのは、久米島の上江洲家文書と、首里・那覇士族の日記であり、その結果、近世期琉球寺院の宗派による社会的機能の相違を明確にできた。

（2）平成21年度からは、上述研究を進展する一方で、位牌や骨壺など、文書以外の資料の基礎研究も開始した。本研究は、特に臨済宗寺院の社会的機能とリンクしてくるものと考えている。位牌や骨壺などは、文書とは異なり、各家における信仰とダイレクトに直結しているため、調査が困難な分野である。そのため、これまで文献史学の立場からの研究が極めて少ないものの、特に久米島で美済氏会の全面協力を得ることができ、本年度の研究は予想以上に進展した。

（3）さらに、平成21年度から、内地寺院が所蔵する近世期琉球寺院関係文書の調査

を開始した。近世期の琉球寺院に関する内地寺院文書類が多数存在することについて情報は得ていたが、これまで研究が皆無であるため、正確にはどれほどあるのか不明であった。平成21年度は、妙心寺と高野山限定ではあるが、それでも300点近くを確認できた。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している

理由

当初計画では不確定要素であった位牌・骨壺調査が予想外に進展したこと。

当初計画の段階で、近世期の琉球寺院に関する内地寺院文書が多数存在する情報は得ていたものの、実際に、予想を超える多くの文書が見いだせること。

4. 今後の研究の推進方策

位牌や骨壺に関する調査を進め、まずは基礎データの集積に努める。内地寺院文書の調査も同様に基礎データの集積に最大限努力する。他方、地方文書を利用した研究では、研究成果の発表に全力をあげる。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

①下郡剛、久米島上江洲家所蔵寺院関係文書について—観音霊籤の被占者と年次の検討を中心に—、久米島自然文化センター紀要、10号、1～19頁、2010年、査読有

②下郡剛、近世琉球社会における臨済宗寺院

と葬送・追善仏事、立正史学、105号、23～39頁、2009年、査読有

③下郡剛、近世琉球社会における真言宗寺院と占いについて、東方宗教、112号、45～63頁、2008年、査読有

〔学会発表〕(計2件)

①下郡剛、近世琉球社会における臨済宗寺院と葬礼・追善仏事について、立正大学史学会大会、立正大学、2008年

②下郡剛、近世琉球社会における真言宗寺院占いについて、日本道教学会大会、東京大学、2007年

〔その他〕

第10回日本道教学会賞受賞、受賞論文「近世琉球社会における真言宗寺院と占いについて」(『東方宗教』112号掲載)、受賞年2009年